

全国保険医新聞

11月5日

2023年

発行所
全国保険医団体連合会
東京都渋谷区代々木2-5-5
〒151-0053
新宿農協会館内
☎03(3375)5121
FAX 03(3375)1885
発行人/住江 憲典
振替口座 00160-0-140346
購読料 年共1ヵ月750円
(会員の購読料は、会費に含まれています)

主な記事

Topics 2

いのちまもる実行委員会は日本医師会の茂松副会長と懇談し、社会保障充実の重要性を共有した。

主張 2

医療費抑制を転換し診療報酬の大幅引き上げを

3 診療報酬改定要求

3 ワクチンパレード



3 医食遊

浜松市楽器博物館を訪れて

4 平和への希求

被害と加害を平和運動の両輪に

4 傷跡 (4)

三十一文字のカルテ⑩

記事検索で情報をキャッチ



https://hodanren.doc-net.or.jp/

医療・介護・福祉の予算増を

いのちまもる総行動



④集会参加者、⑤リレートークで発言する山崎理事



「いのちまもる」医療・介護・福祉に国の予算を増やせ！10・19総行動（同実行委員会主催）が10月19日、東京・日比谷野外音楽堂で開催された。保団連をはじめ医療・介護・福祉従事者らが参加し、人員増に向けた診療報酬・介護報酬の大幅引き上げなどを訴えた。保団連と30協会・医会から150人、全国から約3000人（ウェブ含む）が参加し、集会后は医療・社会保障の充実、保険証廃止の撤回を求めて銀座をパレードした。

実行委員長は、山崎理事（日本医労連中央執行委員長）は、「人員不足の中で、政府はオンライン診療の現場で、医療・介護のさらなる普及や、人員配置基準などの規制緩和を求めている。健康

「#いのちまもる」医療・介護・福祉に国の予算を増やせ！10・19総行動（同実行委員会主催）が10月19日、東京・日比谷野外音楽堂で開催された。保団連をはじめ医療・介護・福祉従事者らが参加し、人員増に向けた診療報酬・介護報酬の大幅引き上げなどを訴えた。保団連と30協会・医会から150人、全国から約3000人（ウェブ含む）が参加し、集会后は医療・社会保障の充実、保険証廃止の撤回を求めて銀座をパレードした。

マイナカードで担い手減る

各分野のリレートークで、医師・歯科医師を代表して保団連の山崎理事が登壇した。コロナ禍を乗り越えた診療所が、マイナ保険証の導入が義務化されたために閉院に追い込まれている事態を紹介し、「私たちは診療所

医薬品供給不足 国が改善を 保団連が厚労省要請



厚労省に要請する高本英司副会長(左)

医療現場の医薬品不足がある。保団連の要請書ではインフルエンザなどは、問題の原因として、流行による一時的な需要増加によるものだけではなく、政府の社会保障費抑制策による後発医薬品薬価の引き上げがメーカーの不発医薬品の供給不安定が採算状況などを生み、供給が不安定化したと指摘した。

保団連と大阪協会は10月19日、医薬品の供給不安定の改善を求めて厚労省要請を実施。広範囲に広がる医薬品不足に対して国の責任で根本的な解決を求めた。

要請書ではその上で、医薬品の調達、薬局や卸との交渉・調整、処方の変更に伴う患者への対応などで現場の負担は増加しているとして、12月31日までに採算状況の改善を要請した。また、後発医薬品使用体制加算「一般名処方加算」等の上乗せ措置を供給不安定解消まで継続するように求めた。さらに政府として、患者・国民にやむを得ない処方変更等が起り得ると丁寧説明すること、処方変更等によって発生した健康被害の把握と補償を行うことなどを求めた。

現場の負担増に加算継続を要請書では、薬価改定について、次回改定で不採算品目の薬価を適正に引き上げ供給安定化を図ること、基礎的医薬品の対象拡大、不採算品目再算定の適用柔軟化など、必要性の高い医薬品の薬価を下支えする仕組みの改善や医療費削減策の転換に舵を切り、新薬の薬価算定について透明性を高め、新薬の高薬価体制を改善する施策を進めるよう要求した。

この他、製薬企業の製造工程に対する管理、監督を強化し、医薬品の製造、流通に対する政府の責任を果たすことなどを要請した。

新年特集号への投稿募集

- テーマは自由。エッセイ、俳句、川柳、詩、写真などを歓迎します
- 投稿は1点のみ（写真と原稿を組み合わせたものはご遠慮ください）
- 原稿字数は600字を厳守のこと。写真は4切りサイズまで
- 締め切り 12月1日(金) 必着
- 住所、氏名、年齢、メールアドレス、ファクス番号（著者校正用）・電話番号をお書き添えの上、以下の宛先まで

Eメール：shinbun-toko@doc-net.or.jp
ファクス：03(3375)1885
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
※採否の連絡と原稿・写真の返却はしません

羅針盤

ある教育熱心な教師が、生徒に体罰をしたとしてパワハラで問題になっていると聞いた。いくら教師が生徒のためを思っても、本人が傷つく言葉を発したり、手を上げてはいけないことは常識である▼集団的個別指導を学校に例えると、「医療費削減」という点で成績の悪い生徒だけ集めて、勉強を強要する行為と同じである。生徒や保護者から、何も悪いことをしていないのになぜ呼び出されたのかと苦情が来るであろう▼個別指導は、成績や素行の悪い生徒を個別に密室に呼び出して、「あなたのことが悪い」と攻め立て、その上罰を与えるようなものである。パワハラで訴えられても仕方がない。このようなことがまかり通っている指導は時代遅れである▼保険医療を良くするには指導することなく、しっかりと教育を受けている保険医の自助努力に任せるべきである。そもそも指導という言葉が威圧的で、適切な言葉ではない。まして、自主返還などという罰則（体罰）は本来あってはならないことである。コロナ診療に明け暮れながら、高点数による集団的個別指導におびえながら過ごす毎日である。（和）